



2019年2月に向けて

## 記

新年おめでとうございます。前回は超豪華な“こうもり”を満喫いたしました。今回は又、前回に負けないものに・・・と思ひまして、魔笛を考えましたが、これは4時間近くかかるので、ご相談してからのことにいたします。今回はリヒャルト・シュトラウス作曲の“ばらの騎士”にいたします。以前、音楽之友社で日本のオペラファンに1970カラヤン指揮シュワルツコップとの薔薇と、クライバー指揮の薔薇とどちらが？のアンケートをとったことがあり、僅差でクライバーの方が勝ちました。KLAで、以前お見せしたのはクライバーの方です。そして、勿論私もクライバー派ですが、今回は2017年Metのフレミング、ガランチャ版にいたします。後で、カラヤンの指揮（何と若くて素敵なの彼！）の姿とクライバーの夢の様にエレガントな指揮と、第一幕のつけからの官能的な音楽と豪華な寝室の侯爵夫人と若い伯爵オクタヴィアンとの愛の二重唱も。さて、その部屋へ夫人の好色な従弟が縁談の事で訪れます。習わしとして花嫁へ銀の薔薇を届ける役目の使者についての相談に、夫人は愛人を推薦します。二幕で、ファーニナル邸に薔薇の騎士として現れた凛々しいオクタヴィアンとファーニナルの娘ゾフィーは、お互いの美しさに惹かれあいます。ペルシャの薔薇油の薫りに包まれた情景がこちらにまで伝わって来るようで、聴衆もうっとりする場面ですから、3作の場面もそれぞれ後で少しずつ比較し、楽しみたく思います。

以上  
青戸